

六甲カトリック教会 教会報



聖体礼拝のすすめ

助任司祭 渡辺 徹郎 s. j.



最近六甲教会では第2・4木曜日の19:00から40分間、小聖堂にて聖体礼拝の集いが開かれています。

「聖体礼拝」とはラテン語“Adoratio Eucharistiae”の訳で、教会の伝統的な祈りの一つです。修道会では比較的よく行われる祈りで、わたしもイエズス会に入ってから親しんできました。イエズス会では、大きめの修道院の場合、週1回のペースで共同体のメンバーみんなが集まって一緒に行うことが多いです。

「聖体礼拝」という何となくぎこちない日本語の響きのため、不思議な祈りの集いのような印象を与えるかもしれませんが、中身はとてもシンプルです。ご聖体を祭壇の上に顕示し、その前で静かな時間を過ごすだけです。途中で祈りの気持ちを高めるために福音朗読を聞いたり、聖歌を歌ったりしますが、ほとんどの時間は沈黙のうちに過ごします。

この沈黙の時間をどのように過ごすかは自由であり、一人ひとりそれぞれの過ごし方があります。わたしの場合はご聖体のうちにおられるイエスを感じることに意識を集中させたり、自身の生活を振り返りながらイエスがどのように同伴してくれていたかを省察したりします。生活を振り返れば他者のことも思い起こすので、その人々のためにも祈ります。こうして、聖体礼拝の祈りはわたしとイエスの二項関係を越えて、他者へと広がります。

聖体礼拝によってご聖体に対する意識を高めることは、ミサにおける感謝の念を深めることにもつながります。ミサによってキリストはご聖体のうちに現存し、わたしたちはそのご聖体を拝領することを通して、神の計り知れない恵みに与かります。聖体礼拝を通して深められるご聖体への畏敬は、この神秘への理解を内的に深めるために大きな助けとなるはずです。

わたしはこの聖体礼拝の祈りが好きで、台湾にいた頃は青年向けの聖体礼拝の集いを企画したり、東京の神学院にいた頃は他の神学生とともに聖体礼拝サークルのようなものを開いたりしていました。そして六甲教会でも協働者の方々とともに新しく始めており、今のところ毎回7名程度の参加者がいます。この聖体礼拝の集いに参加することを通して、みなさまの中でイエスとの親しさがより深まり、ミサへの参加がより意義深いものとなれば幸いです。

みなさまのご参加お待ちしております。



2024年度 第5回小教区評議会議事録(要約)

日 時：2025年1月5日（日）11：30～12：40

場 所：第1、第2会議室

出席者：英隆一朗（主任司祭）、堤 福生（議長）、松井理直・荏原いずみ（副議長）、
岩谷美禰子（書記）、中西裕樹（典礼部）、宗行孝之介（財務部）、
井川直哉（地区会）、井川伸子（社会活動部）、大上尚子（広報部）、
本下 稔（施設管理部）、蛭田 武（三日月会）、藤井敦子（婦人会）、
辻原 華（教会学校）、西川 葉（教会事務室） 以上15名

1. 英主任司祭の挨拶と現状の説明

- ・イエズス会の人事異動：正式な任命書は出ていないが、春に英主任司祭の異動が決まっている（異動先は現時点では未発表）。新しい主任司祭として、加藤信也神父様の着任が内定している。大阪高松教区としては、3月30日（日）に新しい任地に着任するよう調整している。
- ・小教区評議会議長団および評議員の任期：堤議長・荏原副議長・岩谷書記はもう1年継続となる。松井副議長・中村書記は退任となる。次の副議長と書記を3月までに決める。適任者がいれば、推薦して欲しい。また、宗行財務部長が多忙のため退任し、臨時で2025年度は堤議長が財務部を兼任する。
- ・ハラスメント対応委員会：ハラスメントに関する相談が1件あり、被害者・加害者の聞き取りが終了し、2024年12月末に教会としての対応を決定した。

2. 報告事項

- (1) アルペ神父の企画展（11月30日～12月15日）：イグナチオホールで実施済。
- (2) 教会大掃除（11月30日）
地区会（井川直）：参加者約30名、1時間半ほど実施。普段掃除のできないところの掃除を行った。なお、増井神父様が六甲学院の生徒3名と一緒に、排水溝の掃除などを実施された。
- (3) クリスマス・新年会関連行事報告
 - ①クリスマス飾り付け（11月24日）：1月11日に片付けが行われる。
 - ②教会学校クリスマス会・修了式（12月14日）子ども25人、リーダー20人の参加があり、映画鑑賞後ビンゴ大会などを開催した。
 - ③クリスマス音楽の集い（12月22日）：教会報1月号を参照のこと。
223名の参加、献金108,586円。ガザ支援のための寄付とする。
 - ④主の降誕ミサ（12月24、25日）参加人数：
24日ミサ17時225人、19時190人、21時74人。25日7時42人、10時185人。
 - ⑤神の母聖マリア・ミサ（12月31日、1月1日）参加人数：31日23時70人、
1月1日 7時半56人、10時133人。
 - ⑥カウントダウン新年パーティ（12月31日深夜ミサ後）
- (4) その他各部・各部会からの報告
 - ・教会学校：12/24クリスマスキャロリングを行い、街頭募金の呼びかけで33,129円の募金が集まった。ガザ支援に寄付する。
 - ・シナピス神戸主催のクリスマスチャリティコンサート：12月7日に行われ、司祭バン

ド「アーメンズ」なども好評であった。213,371 円の寄付金あり。

・施設管理：2階北側バルコニーの補修工事は12月中旬に終了した。今後、司祭室床のフローリング改修を1月下旬に実施し、さらに司祭室や図書室をはじめとする各部屋の扉のガラスを、擦りガラスから透明なものに変更する。また、火災報知器のセンサーが誤作動を起こしたため、更新する。

3. 協議事項

(1) 財務部からの報告

・2025年度予算について、12月29日に開かれた財務委員会について宗行委員長から説明があり、了承された。なお、2025年度予算額の訂正・変更があれば、今週前半までに宗行委員長まで申請されたい。特に windows10 のサポート終了に伴い、コンピュータ関係の更新が必要である。

備品・器具・電気機器で不具合のあるものについて記録を残し、事務室および主任司祭に報告した後、施設管理部（本下さん）と相談する形で、1本化する。

事務室関係の予算で、消耗品に当たらないものについては、施設管理部で予算を立てる。

・トイレのウォッシュレットが設置されていないものについては、自動的に清潔さを保てるものがあり、教会に設置するにふさわしいことが明確になった場合は、トイレを更新していく。

・英神父より：愛の献金については、なるべく積極的に活用する。カリタス・ジャパンを通じて、ガザの支援を行うことなどを検討する。また、東ティモールで活動なさっている浦神父様の活動支援について、個人の篤志家からの献金もあるが、円安で要請額がふくらんでいるため、充当できない場合は愛の献金から補うことにしたい。

(2) 地区役員定数減について（地区会）

・11月30日に地区役員会が行われた。地区会は7地区3ブロックで構成されているが、7地区の役員数について議論された。現在、地区会の役割も減少・変化してきていると共に、後継者も不足しているため、7地区の役員数を「最低3名」から「最低2名」に変更することが提案され、承認された。

・教会全体で地区会の変更・再編を検討するプロジェクトチームの編成が提案され、2025年度に地区会の変更・再編案を立案することが承認された。

プロジェクトチームのメンバーについては今後検討していく。

(3) 2025年度年間行事予定について（広報部）

・行事予定案が改めて配布され、（電子ファイルについては昨年配布済）1月20日までに各部会の行事予定を提出する（紙媒体の場合は事務局に提出）。なお、変更点は文字色を変えて提出すること。

・2月1日（土）10時より、第1・2会議室にて、各部会から提出された行事予定調整会議を開催する。



(次頁に続く)

(前頁より続き)

4. 今後の行事予定

- (1) 新成人祝福式 (1月12日[日])
- (2) 教会新年会 (1月12日[日]10時ミサ後) 新成人の紹介後に、12/25に受洗された2人の新受洗者の紹介も行う。新受洗者の参加については、事務所から確認し、新年会実施の灘西・中央の担当者に連絡される。
- (3) 三日月会新年親睦会 (1月15日[水]) : 感染症が広がっているため、中止。
- (4) 阪神淡路大震災30周年追悼ミサ (1月17日[金]10時～、神戸中央教会)
- (5) 宣教・養成部講演会 (3月1日[土]) : 実施は現時点では未定。
- (6) 祈りと音楽の集い (3月2日[日]14時～)
- (7) 灰の水曜日 (3月5日[水])
- (8) 教会学校卒業式・終業式・卒業合宿 (3月8日[土]～9日[日])
- (9) 洗礼志願式 (3月9日[日])
- (10) ハラスメント研修会 (3月16日[日]11:30～、イグナチオホール) : 宣教養成部の講演会と共催となる可能性もあり、今後検討を行う。

5. その他

(1) 周年事業プロジェクトチーム

12月19日に第3回の会議が行われ、以下の点が決定され、承認された。

- ・原稿：三日月会、教会学校、地区会、宣教・養成部、社会活動部、施設管理部については、各部の代表に原稿を依頼する。代表者自身が執筆するか、代表から誰かに依頼するかは任意とする。なお、施設管理部に関しては、特に新聖堂建設に関わる内容を依頼する。
- ・座談会：「過去～現在」については蛭田 武さんを中心に、震災時と震災以降のことについて座談会を依頼する。震災当時に助任司祭であった松村信也神父様の招聘も検討する。「現在～未来」については、教会学校の辻原 華さんと渡辺神父様を中心に、若い人たちに座談会を依頼する。メンバーについては、蛭田さん・辻原さんにオーガナイズを依頼する。

(2) 社会活動部

神戸地区社会活動委員会学習会の一環として、平和について考えるため、2月2日11時半から、「壊された5つのカメラ・パレスチナ・ビリンの叫び」を第1・2会議室で上映する。

以上

次回第6回小教区評議会 2025年3月9日(日)11時半より 第1・2会議室



教皇2月の祈りの意向は、「司祭職や修道生活への召命」です。
次のように祈りましょう。
「司祭職や修道生活を通してキリストの使命に奉仕するよう
と呼びかけを感じている若者たちの憧れや疑いを、教会共同
体がしっかりと受け止めますように。」

第30回 越冬越年に参加して

2024年12月28日(土)～2025年1月4日(土)まで神戸市役所南端の東遊園地で、野宿を余儀なくされている人たちを支える「炊き出し」が、5つのボランティア団体によって代わる代わる行われました。そのうちの 하나가カトリック社会活動神戸センターで、12月29日(日)のカレーと1月1日(水)のお雑煮作りがお当番に当たっていました。カレーの炊き出しには、当教会から中学生の本間大翔さんが参加してくれましたので、彼の感想をここに紹介します。

12月29日、僕は三宮の東遊園地で行われている炊き出しのボランティアに参加しました。昨年も参加して雰囲気に慣れていたせいか、積極的にお手伝いをすることができました。作った料理はカレー丼です(写真)。



僕は具材となる野菜を洗って刻んだり、切った具材を大きな鍋の中に入れて混ぜたりしました。カレーを煮ている間、ボランティアに参加していた他の教会の小学生に鬼ごっこをしようと誘われ、遊び相手になっていたのですが、気がつけば僕も夢中になって遊んでいました。カレーができ上がる頃には長い列ができていました。並んでいる人にスプーンや食器をふく紙ナフキンを配りました。みなさん嬉しそうにカレー丼を受け取り美味しそうに食べている姿を見ていると、僕も嬉しくなりお腹も空いてきました。カレー丼は格別に美味しかったです。野菜たっぷり栄養満点の美味しいレシピだったから？みんなと頑張ったから？屋外で仲間と一緒に食べたから？理由を考えてみましたが、全部当てはまるなと思いました。

人の役に立たなくては、という気負ったボランティアではなく、今回は自分も楽しみながらお手伝い出来ました。教会や僕の学校では身近にボランティアをするチャンスがあるので、またみんなで参加したいと思いました。

(本間 大翔)

元旦は、雲一つない青空のもと(写真左上)、おじさんたちが待ちに待ったお雑煮です。炭火で丸餅をじっくりと焼き(写真左下)、それをお椀に入れて、大鍋で煮込んだ具だく



さんの汁をかけ、アツアツの美味しいお雑煮が出来ました(写真右下)。身も心もあたたまり、花時計の周りは幸せな雰囲気が漂っていました。



ボランティアで初めて参加された一人暮らしのかたから「ここに来てみんなと一緒に美味しく食べられてよかった。」という声がありました。この日の配食数はボランティアを含めて196食でした。

(社会活動部 井川 伸子)

新年会～成人祝福式と新受洗者の紹介～



1月12日(日)10時ミサ後イグナチオホールで新年会が、英主任司祭の挨拶で始まりました。参加者は約100名で、イグナチオホールが満員になりました。

小教区評議会 堤議長の乾杯の挨拶に続き、新成人1名(写真はミサ中の成人祝福式)とクリスマスに受洗された2名の方の紹介があり、大きな拍手がありました。

(新受洗者 森田 正さんの感想を以下に示しました。)

メインテーブルでは、お寿司、サンドイッチ、スパゲティ、果物、手作りケーキ、クッキーが用意されました。後半では、英神父様、渡辺神父様、増井神父様と参加者全員による”ジャンケンゲーム”の勝ち抜き戦が行われ、勝者には豪華な景品が贈られました。今年も昨年以上に希望の年になるようにとの渡辺助任司祭の祝福の言葉のうちに閉会しました。



新年会を担当された灘西・中央の皆様ありがとうございました。(地区会 井川 直哉)

「信仰を明確に」—洗礼を受けて—

聖ヨハネ 森田 正

私は、2023年10月から六甲教会の入門講座を受講させていただいており、昨年12月25日のクリスマスに、同じく受講されておられた山中様と一緒に洗礼を受けさせていただきました。

二十歳代の頃の私は宗教について、全く無関心で何一つ考えることはありませんでした。ところが、偶然にも29歳の時にJICAの「ネパール結核対策プロジェクト」の一員として参加することになり、海外旅行の経験もなかった私のネパール生活がスタートしました。ネパールでは、亡くなられた人はガンジス川に通じる川の水で清められ、川岸のガートで荼毘に付され遺灰が川に流されます。その下で子供たちが水遊びをし、女性が洗い物している光景を見ていると、人は日々死に向かって生きていると思うようになり、同時に宗教の必要性も感じるようになりました。

私も、高齢者となり終活を進める上で自らの信仰を明確にしたいと考え、六甲教会の扉を叩かせていただきました。30数年前の六甲教会での結婚時と同様に快く受け容れてくださったことに感謝しています。

私自身、至らぬ人間ですが、イエス様は私の罪をゆるし、暗闇の中の光となり、導いてくださると信じています。

▶▶▶▶ バチカンニュースより (VATICAN NEWSは、インターネットでご覧になれます)

◎世界広報の日に向けて教皇のメッセージ:「あなたがたが心に抱いている希望を穏やかに分かち合いなさい」(参照 ペトロ;3,15-16)。(1月24日は広報の聖人である聖フランシスコ・サレジオの記念日)

「広報関係者の聖年」が始まり、教皇フランシスコは1月27日、世界各国の司教協議会の広報責任者・担当者との集いをもたれ、「わたしたちのコミュニケーションは祈りが伴っているか」などを自らに問うように勧められました。日本からは、酒井俊弘補佐司教が教区の広報関係者の皆さんを率いてバチカンを訪れ、聖年の扉をくぐりました。一同はその後、教皇に謁見しました。その時の様子はYOUTUBEで配信されています。(https://www.youtube.com/@PaulusSakai)

◎世界病者の日に向けた教皇メッセージ:「希望は試練の時に私たちに強くする」

「世界病者の日」は毎年2月11日に祝われます。ルルドの聖母マリアを記念する日ですが、今年が聖年であることを考慮して、フランシスコ教皇は式典を1年延期すると発表しました。これにより、2026年の「世界病者の日」の式典は、ペルー・アレキパにあるセント・メアリー教会の聖マリア「チャピの聖母」の聖地で行われる予定です。なお、教区レベルでは、今年も例年通り2月11日です。



教会学校 始業式と餅つき



1月11日（土）はとても寒い朝で始まりました。

教会学校（辻原 華校長）は、本日始業式。20人の子どもたちはイグナチオホールで三学期の始まりの挨拶を交わしました。この日はグループ分け（写真左）をし、各グループリーダーとの顔合わせをしました。

始業式のあとは「餅つき」があります。これもグループごとに行われるため、1班が餅つきをしている間、他の班は別の場所でアニメ映画を見るなど、うまく時間配分がなされ、順番に回

っていきました。

餅つきでは、1年ぶりに倉庫から出された杵と臼をきれいに洗ったあとは、開始4時間も前から臼を温めるなど事前の準備がありましたそして、いよいよ、餅つきです。教会学校リーダーの大人の男性達が、蒸し上がったもち米を臼に移して、杵でこねます（写真右上）。二人がかりで、こねて、こねて、こねる。これをしておかないと、おいしいお餅に仕上がりません。そのあと、杵は一番大きなものを使って、力いっぱい搗（つ）いていきます。腕まくりや、半袖シャツのリーダーもいました。搗きがほぼ一段落したところで、子どもたちの出番です。（写真右下）。小さな杵を使って、10回ずつ順番に搗いていきます。臼の真ん中の餅にドンピシャに杵を当てる子、かついだ杵のバランスをとるのが難しく、最初はうまく搗けない子もいました。

仕上がったお餅はイグナチオホールに運び込まれ、バットに広げられ、子どもたちの手で丸められていきます。小さいのから、げんこつ大のものまでたくさんできました。味付けは、海苔（一人4枚！）、砂糖醤油、きな粉、大根おろしが用意されました。人気は砂糖醤油と海苔。大人ではプレーン（何もつけない餅そのもの）がおいしかったという人もいました。

餅つき隊の皆様、ご協力くださった保護者の方々ご苦労さまでした。



阪神淡路大震災 30年追悼ミサ～1月17日神戸中央教会で

阪神淡路大震災から30年、震災関連死を含む6,434名の犠牲者の皆さんへの鎮魂の思いをこめて、1月17日未明の神戸の東遊園地に浮かび上がった文字は、「よりそう 1・17」。

震災後30年となった今年をひとつの区切りとするため、六甲教会での例年の追悼ミサは行わず、カトリック神戸中央教会でのごミサに与ることとなりました。司式は前田万葉大司教。祭壇の前には、震災で亡くなられた方々の名前が地区ごとに記された大きなパネルが置かれ、また、パネルの前には、11地区を象徴する小さなろうそくが灯されました。祭儀の中で慰霊の祈りの時間が設けられ、1分間の黙とうが捧げられました。ステンドグラス越しの光が美しい主聖堂は満席。静かな祈りに包まれました。



六甲教会の社会活動部が年末・年始、そして毎月第2土曜日（8、11月を除く）行う“炊き出し”の活動原点であるカトリック社会活動神戸センター（神戸中央教会敷地内）は、震災直後の1995年1月17日に被災地でのカトリック大阪大司教区の緊急救援基地として設立されたもの。当時の「中山手現地救援本部」から現在の名称になっています。

六甲教会からは、英 隆一朗主任司祭が司式に参加され、また、第2朗読に堤 福生さん、共同祈願に三垣恭子さんおよび奉納に福島きよ子さんが奉仕をされました。ごミサのあとには、中庭で温かいお汁粉がふるまわれました。

私の好きな聖書のことば

「あなたは私の愛する子」(ルカ 3章 22 節)

マリア・クララ 原 理香



2009年から数年間、体験した苦しい出来事をきっかけに、私は「暗夜」の中に居ました。神さまが存在しているのか感じられず、全く分からなくなっていました。2012年2月、四ツ谷のイグナチオ教会で『CLCの集い』のチラシを見つけ、そこに知人の名前をみつけ、思い切って参加してみました。そして、当時、CLCの教会助言者をされていた英神父さまが、その集いのプログラムの1つとしてガイドされた、10分間の黙想で読まれたみことばが『あなたは私の愛する子…』でした。そして、『私の心に適う者』ではなく、『私のお気に入り』と読まれたのです。そのみことばを聴いた瞬間、まるで天が開けたように、突然、神さまの臨在と愛を実感して私は号泣しました。その後、困難や囚われによって、神さまの愛を疑ったり、素直に受け取れない状態になっても、人の愛や助け、祈り、出来事を通して、神さまは私に『あなたは私の愛する子』と呼びかけて下さっています。その呼びかけに応えて『希望の聖年』を、同じ神さまから愛されている子である関りある人と共に、信頼の内に歩み続けたいです。

(筆者註:CLCはクリスチャン ライフ コミュニティという信徒団体)



ハラスメント研修会の開催について

六甲教会ハラスメント対応委員会

*ハラスメント調査対策委員会から改称しました。

教会報 11月号にてお知らせしましたとおり、当教会では信者等が安心して教会活動・信仰生活を行うための一助とするべく、主任司祭のもとで、ハラスメント対応委員会を発足させ、活動を開始しています。

教会に集う皆が、安心して教会活動・信仰生活を行うために、主任司祭から講話をしてもらうことにしました。イエズス会の今の方針に基づき、何がハラスメントにあたるのか、私たちは何をなすべきかを中心にして、話してもらう予定です。質疑応答も予定しています。

信者の皆さんのハラスメントに対する意識を高める場としたいと考えています。ぜひご参加ください。なお、この研修会は宣教・養成部とハラスメント対応委員会の共催で行います。

日時:2025年3月16日(日) 11:30~ 聖堂にて1時間程度

講話:英 隆一朗(主任司祭)

タイトル「安心して参加できる教会生活を目指して(仮題)」

《 図書室からのお知らせ 》

・2025年1月に入った本を紹介します。

- ☆ 神父さまおしえて 稲川圭三(著) サンパウロ
 - ☆ イエスさまといつもいっしょ 稲川圭三(著) サンパウロ
 - ☆ 神さまのみこころ ~イエスさまのたとえを聞く 稲川圭三(著) サンパウロ
 - ☆ おまえうまそうだな さよならウマソウ 宮西達也(作・絵) ポプラ社
 - ☆ きみがきみらしく生きるための 子どもの権利 甲斐田万智子(監修) 林ユミ(絵) KADOKAWA
- 以上、5冊は、子供たちへの寄贈本です。

- ☆ 見よ、それはきわめてよかったー総合的なエコロジーへの招き 日本カトリック司教団(著) カトリック中央協議会
- ☆ イエスは四度笑った 米田彰男(著) 筑摩選書
- ☆ テゼ共同体と出会う 上垣 勝(著) サンパウロ
- ☆ ロザリオの祈り 聖書・観想・意向 キリストバル・M・バリヨヌエボ(著) サンパウロ
- ☆ 国際正義の促進ー多民族・多国籍の人々との共生を目指して 上智大学社会正義研究所ほか(編)サンパウロ
- ☆ グローバル化と先進国における貧困と社会的排除 野宿者、フリーター、移住労働者の現場から 上智大学社会正義研究所ほか(著、編) サンパウロ
- ☆ 新約聖書(改訂新版) 新約聖書翻訳委員会(訳) 岩波書店 2023.12
- ☆ 七十人訳ギリシャ語聖書-モーセ五書 秦 剛平(訳) 講談社学術文庫 2017.11
- ☆ 物語としての旧約聖書-人類史に何をもたらしたか 月本昭男(著) NHKブックス
- ☆ 一目で見る四福音書-新共同訳聖書による本文と地図つき 熊谷定男(編・著) 聖恵授産所出版部
- ☆ 主の母マリア — カール・ラーナーに学ぶカトリック・マリア神学 光延一郎(著) 教友社
- ☆ 霊操 イグナチオ・デ・ロヨラ(著)・川中 仁(訳・解説) 教文館 (二冊目です)
- ☆ 高みを目指して~六甲精神の源を探る 六甲学院誕生物語 古泉 肇(編著)
- ☆ 高みを目指して~六甲精神の源を探る 補遺 古泉 肇(編著)

※皆様方の図書室をさらに使いやすくするために、どうしたらよいか。

お気付きの点をお知らせ下さい。図書室入口の投書箱、または教会事務室まで。



社会活動部 今月の予定

- 2月 5日 (水) 10時 手芸の集い 第1、第2会議室
- 2月 8日 (土) 10時半 炊き出し 小野浜グラウンド(中央区小野浜町3)
・一緒に車で行かれる方は 六甲教会に10時集合です。
教会事務に事前にご連絡下さい。
- 2月 16日 (日) 10時ミサ後 第4会議室 社会活動部連絡会 & 慰労会
- 2月 21日 (金) 9時半 ともしび会 教会台所
(児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り)

【2025年2月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
						1
						小教区評議会 来年度行事予定 調整会 10:00～
2	3	4	5	6	7	8
主の奉献 手話付きミサ 10:00	ユスト 高山右近 殉教者		日本26聖人 殉教者		初金曜日 ミサ 7:00 10:00 ◎東灘南	社会活動部 炊き出し
9	10	11	12	13	14	15
年間第5主日 地区役員会 11:30		世界病者の日 ミサ 7:00 10:00			◎東灘北2・ 芦屋	
16	17	18	19	20	21	22
年間第6主日 社会活動部連絡会 10:00 ミサ後					◎大阪 シナピス	聖ペトロの 使徒座
23	24	25	26	27	28	1
年間第7主日 子どもとともに 捧げるミサ 10:00 施設管理部会 11:30	教会事務室 休み					

◎印は掃除当番地区（午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止）

【編集後記】

◇ネット社会が広がり人々は新聞を読まなくなった。いわゆる紙媒体の役割が減っているようです。でも、ネット情報には不確実なものや、自己主張のために事実を歪曲したものなどが混じり、それがあつという間に拡散するのが怖いところ。いったん発信されれば削除のあるなしにかかわらず独り歩きしてしまいます。活字メディアの時代は過ぎ去ったと思わずに、「じっくり読んで深く考える」時間を作ることは大切です。毎月発行するこの教会報も紙媒体。紙媒体の役目を自覚し、謙虚で正確な情報源としてお届けしていくつもりです。乞、ご愛読。

◇大寒を過ぎれば立春。四旬節を経てご復活に至る過程はこの暦の動きとシンクロします。ことしのご復活は4月20日。春はまだ遠いようですが希望がふくらみます。（余） ver1.2

<p>次回3月号の発行は3月1日（土）です。原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へご持参いただくか、FAX、メールでお願いします。 (renraku@rokko-catholic.jp) 皆さまからのご寄稿をお待ちしています。 ・教会SNSチームは、フェイスブック、Instagram、X（旧ツイッター）、YouTubeチャンネルで配信しています。「六甲カトリック教会」で検索してみてください。 毎月の教会報はホームページではカラーでご覧になれます。</p>	<p>六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp 発行責任者 英 隆一朗 編集 広報部</p>
--	--